



慶應義塾大学ビジネス・スクール

“すごい” 医療チームをつくる

5

— 林成之医師の挑戦 —

林成之氏の経歴

10

林成之（はやし なりゆき）氏は、1939年富山県水橋に生まれた。日本大学医学部（1965年）、同大学院医学研究科博士課程（1970年）を修了した後、マイアミ大学医学部脳神経外科、同大学救命救急センターに留学する。帰国した後の1994年に、日本大学医学部附属板橋病院の救命救急センター部長に就任し、長きにわたって救急の患者さんたちの治療に取り組み続けた。その間、数々の画期的な治療法を開発して大きな成果をあげた。その中でも、多くの脳死寸前の患者さんの生命を救った“脳低温療法”は、世界にその名を知られる大発見となった。

15

林氏が脳神経外科医を志したのは、「ベン・ケーシー」というアメリカのテレビ番組を見たことがきっかけだった。脳神経外科医が主人公となった人間味あふれる医学ドラマで、メスを持つ白衣のヒーローの姿がとても格好がよく見えて、『自分もああゆう医者になりたい』と憧れを抱いたのであった。

20

その後、望みどおり脳神経外科医になることができたが、当時（1973年頃）、脳神経外科は医学の中では極めてマイナーな診療科目であった。医者の数も少なく、医療水準も現在と比べれば大変低いもので、事故や病気で脳を大きく損傷したら、まず助かる見込みはなく、手術をしても多くの患者さんは亡くなっていた。

このような状況の中、林氏もなす術もなく、ただ患者さんの手を握ってうなだれる。悔しさと申し訳なさで、何度も涙を流していた。

25

このケースは、巻末に示す参考文献及び日本大学ホームページをもとに、慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授 高木晴夫の指導のもと、同修士課程 M25 期生 丹徹也が編集して作成した。クラス討議の資料とするためのもので、医療、医療技術、経営及びリーダーシップの適否を例示しようとするものではない。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright© 高木晴夫・丹 徹也（2010年6月作成）